



# 布施だより

## 《 2015年から2016年へ 》

2015年から2016年の年が明けました。今年もよろしくお願ひいたします。年末から年始にかけての様子をお伝えします。

### 〈 終業式 〉

12月25日(金)の2学期終業式では、生徒代表の3人の皆さんから2学期を振り返っての発表がありました。

「2学期で頑張ったことがふたつあります。ひとつめは部活動です。僕はバスケットボール部に所属しています。1学期にはあまりゴールにボールが入らなかったのが、暑い中できつい体力作りや基礎練習を行ったお陰で、シュートも決まるようになってきました。ふたつめは生活についてです。2学期の初めは、2分前着席を意識していませんでした。11月になり、20日間チャレンジが始まり心がけられるようになり、その結果3組では達成率100%になりました。それはクラスみんなで心がけ、呼びかけてあうことのできたことです。3学期は時間を守ることを心がけて、一生懸命頑張りたいです。4月に新入生が入学してきたとき、先輩としてしっかりした行動のできる自分を創り上げたいと思います。(1年3組 塚田晃司さん) ~ ~ ~



「私がこの1年で学んだことは『すぐに諦めてはいけない』ということです。私は理科が苦手で、テストでも納得できない結果でした。「苦手教科だからしょうがないか・・・」と考えていましたが、苦手だからこそ頑張らなければいけないことに気づきました。それから、できるだけ毎日分らないところを重点的に勉強し続けた結果、今までの点数を大きく伸ばすことができました。「頑張ればできる」と諦めなかったからです。自分に自信を持ってチャレンジすることが大事だと改めて実感しました。3学期からは、第51代生徒会が始まります。たくさんのことにチャレンジし、第51代の役員を支えながら協力して生徒会を創っていきたく思います。(2年3組 鈴木はるかさん) ~ ~ ~



「3学期は、中学校3年間の総まとめになり、受験を控え、ひとりひとりが気持ちの面でも不安定になりがちなる時期を迎えます。自分を振り返ったとき、苦しいこと苦手なことから逃げたこと、一つのことを続ける根気のなさ、当たり前前が当たり前前にできずに楽な方を選ぶとする、そんな自分を卒業までに変えていきたいと思っています。みんなが仲間として、より絆を深め、励まし合って受検を乗り越えていけるように、ルーム長として最後まで務めていきたいです。登校日数が少ないので、一日一日を大切に過ごすと共に、進路実現に向けて頑張っていきたいと思います。(3年2組 丸野芽衣さん) ~ ~ ~



### 〈 始業式 〉

明けて1月7日(木)の始業式では、3人の生徒代表の皆さんから3学期への決意発表が次のようありました。

「・・・部活動は、今月には1年生大会があります。今までは基本練習が中心でしたが、大会に向けた試合形式の練習をやらせてもらえるようになり、まだまだ先輩達のようにプレーできませんが、日々の練習の成果が残せるように頑張りたいです。そのためにも、時間を大切にして練習メニューに取り組んでいきたいです。あと3ヶ月で私たちにも後輩がいます。後輩から尊敬されるような先輩になりたいです。行動で示せるように、やるべきことをしっかりとやっていきたいです。これからは、やらなくてはならないことが増えてくると思いますが、限られた時間の中で、優先順位を決めて、今自分がやるべきことにきちんと取り組んでいきたいです。(1年4組 木内ひよりさん) ~ ~ ~



「・・・3学期に頑張りたいことのひとつめは勉強です。私は理科と数学が特に苦手なので、この2教科を中心に頑張りたいです。今までの勉強のやり方だと、ただやるだけで分からないところを後回しにしてしまっていたので、普段から予習復習を行い、理解できるまで頑張りたいです。普段の授業でも積極的に発言したいです。3学期は1年で一番登校日数が少なく、3学期が終わればもう3年生です。勉強、部活動、共に両立できるよう一日一日を大切に過ごしていきたいです。(2年4組 近藤歩乃香さん) ~ ~ ~



「卒業に向けて、一日一日を大切に過ごしていきたいです。もう大きな行事はなく、普通の毎日が続いていきますが、だからこそ気持ちを落ち着けて残りわずかとなった西中での生活を味わっていききたいです。そのためには今まで取り組んできた凡事徹底を大切にしていきたいです。生徒会を第51代にバトンタッチした私たち3年生だからこそ、第51代のスタートがスムーズに行くよう協力して、凡事徹底を心がけていききたいです。またクラスや学年の仲間ともあと49日でお別れとなります。今以上に関わりを深くして、みんなと仲良く最後の学期を過ごしたいと思います。わずか49日間しかありませんが、充実した日々を送り、胸を張って、この西中を卒業していきたいと思えます。3学期もよろしくお願ひします。(3年3組 西村友里 さん) ~ ~



校長講話では「別れを惜しむ」と題したお話がありました。校長先生からの、「別れをかけがえないものにしてほしい。そして新しい出逢いに向かって行ってほしい。」という皆さんひとりひとりへのエールです。お読みください。

3学期は49日間の短い学期です。別れの学期でもあります。この別れに関わることで、2学期、ステンドグラスを片づける時に、銀祭実行委員の3年生がどんなふうにステンドグラスを片づけていたかを聞いて私はとても感動しました。ステンドグラスは、毎年片付けをしたら、可燃ゴミとして処分をしています。全校で製作した思いの込められた素晴らしい作品ですが、そうせざるを得ません。このことは銀河祭実行委員の皆さんもよく分かっていることです。可燃ゴミとして処分されることが分かっているものを、普段、私たちはどんなふうに片づけるでしょうか。破いて丸めてゴミ箱へ、これがよくあることだと思います。

ですが、銀河祭実行委員の皆さんの片づけ方はこうではなかったそうです。粘着力の強い両面テープで貼られたステンドグラスを、破れないように丁寧に、1ヶ所ずつはがしていったそうです。それでも、どうしても破れてしまうパーツがあります。その破れたパーツをどのようにしたか。一枚一枚丁寧にたたんでゴミ袋の中に入れていったそうです。

物事の終わり、別れの時はこうありたいと思えます。ステンドグラスとの別れの時に、捨てる分かっていても破ることができなかった思い、破れたパーツをたたまずにはおられなかった思い、これが本当に尊いことだと思います。銀河祭実行委員の皆さんがステンドグラスにどんな思いを持って、そして、どんなふうにステンドグラスに関わってきたのか、そのことがこの別れの姿に現れています。「別れを惜しむ」ということはこういうことだと思います。

3学期の終わりには、多くの人やもの、こととの別れがあります。その別れの時に、こうした姿にあふれる3学期でありたいと思えます。そのために、今、目の前にあることや、当たり前のように近くにいる仲間、先輩や後輩、先生たちとの関わりを大切に、1日1日を過ごして行ってほしいと思えます。

・・・篠ノ井西中学校の3学期49日間がスタートしました。

~ ~ ~ ~ ~

毎日の学級通信や学年通信には、その日の生徒諸君の活躍が横溢しています。それぞれの活躍に目を通しながら、この時期当然の如く目を凝らしてしまうのが3年生諸君のそれらです。3学年諸君の祈りにも似た「当たり前の中のこそ卒業と進路実現」があるという言葉に接していると、知らず知らずの内に、「ガンバレ！」とつぶやいている自身に気づかされます。・・・高校の先生から中学校3年生諸君に向けたメッセージです。お読みください。

・・・多くの希望や期待の中に「高校に入れば多分自分も変わるだろう。」「高校が自分を変えてくれるだろう。」「なんとなく自由な雰囲気があるんじゃないかな。」といった他人(高校)まかせの期待がないかどうか一歩立ち止まって考えてもらいたいのです。

高校へ入学すれば「何か」が自分を変えてくれると考えている人に、はっきりと言いたいのは「高校へ入学しても何も変わらない。」ということです。同じ人間が高校へ入学しただけで、そんなに変わるものなのでしょうか。もちろん高校生になって明らかに変わった人も何人か知っています。それは高校が全てを変えてくれたのではなく、本人が「自分の意志」で高校という新しい環境の中で自分を変えたのです。そこを間違えないでほしいのです。結局「高校へ行ったらこうしよう」と望むとき、誰か(高校)が変えてくれるものと期待するのではなく、自分が自分を変えていくという強い意志が大変重要なのです。

ではどうすればいいのか。それは中学3年生の今の自分の生き方や考え方の中に答えがあるように思えます。自分から起きもせず遅刻がちな、そして時間を守れない人が、今よりも数倍も通学距離が長くなった時にそれに堪えられるのでしょうか。人に不愉快な言葉を平気で投げかけている人が、~30校にも及ぶ他中学出身者と、うまい人間関係が作れるのでしょうか。何でも人任せで自分の目、耳で確かめて行動しようとする人が、生徒の自己決定の場を尊重する高校の指導についていけるのでしょうか。学習しようとする意欲と地道な努力(試験の結果の良し悪しではない)をどこかに置き忘れてしまった人が、内容量も速さも中学の3倍以上の高校の学習に堪えられるのでしょうか。なにもかも人の指示を待って動いてきた人が、自分で考えて行動することを支持されたら、そんな環境に堪えられるのでしょうか・・・。

君たちが高校に対して夢や希望そして期待を抱くことは自由です。そして高校進学は決して損ではなく、高校には中学時代とは比べものにならないくらい幅広い友人関係が結べ、知的歓びを味わい、さらに自分で行動し自分を成長させてくれる「場」が用意されています。問題は君たち自身がその環境にどう立ち向かっていくかなのです。高校へ進学したら変わるだろうではなく、今の自分をもう一度振り返り、変えて行ってほしいのです。高校はどんなことであれ、「自分を自分で」よりよく変えようとする人を待っています。

・・・今年もよろしくお願ひいたします。

